

寿司打を用いた中学生向けブラインドタッチ教材の開発

小倉 清遠*1

指導教員：新井 一成 *2

Email: koffice@u-gakugei.ac.jp

*1: 横浜市立山内中学校 2年

*2: サイエンスフロンティアラボ

◎Key Words ブラインドタッチ, 情報教育, タイピングリテラシー

1. はじめに

私はブラインドタッチが出来るようになる寿司打^①を使った教材を開発し、提供したい。近年PCのキーボードを打てない新入社員や子どもが増えている。2017年にマイナビが社会人211人に行った調査によると、図1のように、ブラインドタッチができると答えた人は37.0%だった。また、ブラインドタッチができないと答えた人は63.0%だった^②。そのため、仕事の効率化が図れない職場が増えている。タイピングができない原因はスマートフォンの普及にあると考えられる。PCは難しそうなどといった先入観があるが、それに比べスマートフォンは操作が直感的で、どこにでも持ち運べるといったメリットがある。その結果、PCに触れる機会が少なくなっているのが現状なのではないか。そこで中学生向けの教材を考え、学校教育の中でカリキュラムのどの点と関連があるかを検討した。

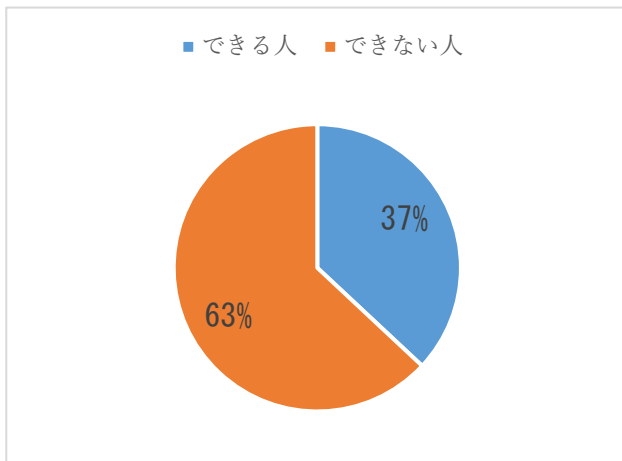


図1 ブラインドタッチができる人の割合 (2017年マイナビ調べ n=211)

2. 寿司打

2.1 寿司打とは

寿司打とは、Neutral タイピングが開発したローマ字のタイピング練習ゲームのことだ。無料で、かつ図2のようにブラウザで学習できる。そのため、若い世代から人気がある。ゲーム内容は、回転寿司のお皿が流れてしまう前に画面の文字をタイプして、どれだけモトを取れるか(=たくさん食べられるか)を競うというものだ。(図3)



図2 寿司打 (ブラウザ)



図3 寿司打のプレイ画面

2.2 寿司打を利用した理由

寿司打は上記の通りゲーム性があり、図4のように5段階の難易度と3つのコースを選択することができる。そのため、楽しみながら続けられるといったメリットがある。また、ブラウザベースであるので、専用のアプリケーションソフトをインストールする必要がなく、学習環境を選ばない。このことは、アプリケーションソフトのインストールに教育委員会の許可が必要なことが多い学校現場とも相性が良い。



図4 難易度とコースの設定

3. 教育の内容

3.1 教育する対象

本研究は学校での ICT を活用した授業におけるブラインドタッチ速度の向上を測るのが目的である。本研究では中学生を教育の対象とする。

3.2 対象が中学生である理由

ブラインドタッチを行うにはまずローマ字を理解していなければならない。小学校学習指導要領の国語にある、「第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。」⁽³⁾「第3学年におけるローマ字の指導に当たっては、第5章総合的な学習の時間の第3の2の(3)に示す、コンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得し、児童が情報や情報手段を主体的に選択し活用できるよう配慮することとの関連が図れるようにすること。」⁽⁴⁾とあるように、ローマ字は小学校3年生で学習する。本研究では、中学校社会科と中学校国語科での使用を考える。中学校学習指導要領社会の「地理的分野 C 日本の様々な地域(4) 地域の在り方 ア 地域の在り方を、地域の結びつきや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。」⁽⁵⁾や、中学校学習指導要領国語(第2学年)の「C 読むこと(2) ウ 本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする活動」⁽⁶⁾において、ブラインドタッチが役立つだろう。

3.3 教育の内容

中学校の社会の時間においては、第2学年の「地域の在り方」の授業で取り入れる。この授業では図5⁽⁷⁾のように地域が抱えている課題に関してレポートやポスター、報告書にまとめ、プレゼンテーションソフトで発表する。その際、寿司打を活用し、ブラインドタッチができることによってその作業を素早くでき、内容を考える時間が持てるようになる。

また、同じく第2学年の国語の時間においては、図6⁽⁸⁾の「表現を工夫して書こう」の電子メールを書くという単元で寿司打を取り入れる。ブラインドタッチができることにより、相手から電子メールがきても素早く返信することができる。

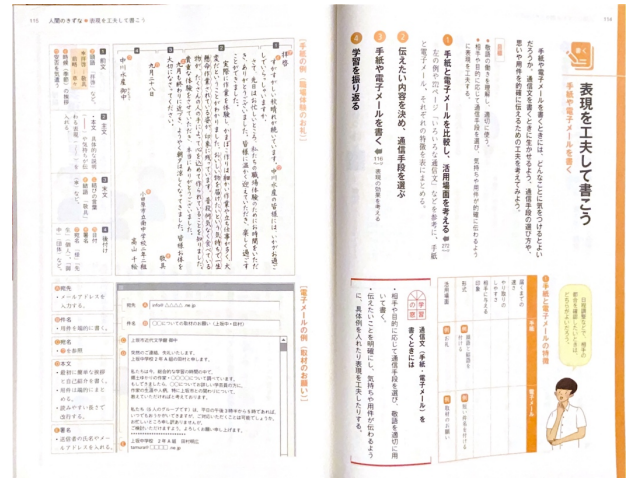


図6 電子メールの授業

4. 考察

本研究では中学校社会と中学校国語を例に挙げた。私が入り上げた活動内容は、文字を早く打ち込む必要があったり、文字を大量に打ち込む必要があったりする箇所である。明日のインタビューまでに、インタビューを受けていただく方に体裁のととのったメールを返さなければならない。このときブラインドタッチができなければメールの返信が遅れ、準備が間に合わなくなってしまう可能性がある。また、20枚程度のプレゼンテーション用スライドを作成する必要があるとき、文章を表示する位置や色、フォントなど、文章そのものよりも多くのことを決めていく必要がある。その時ブラインドタッチができないと、せっかくひらめいたレイアウトを反映させることができない可能性がある。

こうした特徴をもつ活動では、ブラインドタッチが出来ることで円滑に学習を進めることができると考えた。

引用・参考文献

- (1) Neutral タイピング 寿司打: <http://typingx0.net/sushida/>
- (2) マイナビ学生の窓口フレッシューズ: <https://gakumado.mynavi.jp/freshers/articles/47594?page=2> (2017).
- (3) 文部科学省: “小学校学習指導要領(平成29年度告示)”, 国語, p.32.
- (4) 文部科学省: “小学校学習指導要領(平成29年度告示)”, 国語, p.39.
- (5) 文部科学省: “中学校学習指導要領(平成29年度告示)”, 社会, p.45.
- (6) 文部科学省: “中学校学習指導要領(平成29年度告示)”, 国語, p.35.
- (7) 帝国書院: “社会科 中学校の地理<世界の姿と日本の国土>”, p.294.
- (8) 光村図書: “国語2”, pp.114-115.

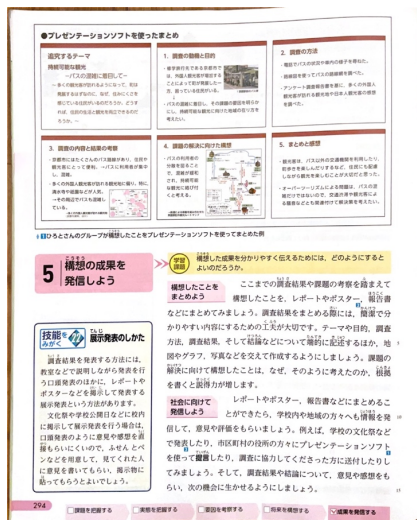


図5 地域の在り方の教科書内容